

目 次

はしがき	1
目次	5

第1部：日本語学班の活動の概要¹

平成20年度研究進捗状況報告	11
----------------------	----

第2部：研究会等の発表資料²

国会会議録における「全然」「全く」の使用頻度比の推移（服部匡）	21
「全く」と「全然」の（共起述語類別）頻度比の変遷 ——国会会議録のデータより——（服部匡）	27
国会会議録における「御○○」の使用動向：どのような語に「御」がつくか（服部匡） ...	35
非標準的な(?)形の出現傾向と話者の意識について ——「めったにしか(～ない)」「ろくにしか(～ない)」という言い方——（服部匡） ...	37
原因・理由を示す複合助詞の補文のテンスについて ——「ために」「によって」「おかげで」「せいで」——（杉本武）	40
「N-書き」と「N-読み」の語形成（杉本武）	50
コノテーション研究とコーパス（石井正彦）	60
「借りる／借りない」の最前線 ——JST・科学技術文献情報の「ユビキタス」を例に——（石井正彦）	64

第3部：論文³

コーパスと文法研究(田野村忠温)*	83
大規模な電子資料に見る現代日本語の動態(田野村忠温)*	84
コーパスからのコロケーション情報抽出 ——分析手法の検討とコロケーション辞典項目の試作——(田野村忠温)*	106
複合辞の本性について——その構成と単位性——(田野村忠温)*	128
「代わり」の分析試論——巨大なWebコーパスに基づく考察——(田野村忠温)	137
文法の中核と周辺——コーパスが観察可能にする文法的一面——(田野村忠温)	154
複合格助詞の連体用法について(杉本武)	166
(小特集「国立国語研究所の60年」) 語彙・計量研究(石井正彦)*	183
テレビ放送のマルチメディア・コーパス ——映像・音声を利用した計量的言語使用研究の可能性——(石井正彦)*	191

1) 第1部の内容は、特定領域研究「日本語コーパス」の本年度全体会議（奈良県新公会堂、2008年9月6～7日）予稿集所載の班長報告原稿である。報告時期の関係で、本年度前半の活動状況に関する報告となっている。

2) 第2部には、日本語学班研究会を含む研究会・学会で班員が行った口頭発表の一部について、その配布資料に必要な応じて修正を施したものを収める。口頭発表の一部は論文の形に書き改めて第3部に収めている。

3) 第3部には、今年度中に公刊された論文の一部（うち一部はその原稿）と、未発表の論文数編とを収める。前者（*印を付したもの）については書誌情報を「研究発表（1）公刊論文」（2～3頁）に記載している。後者はいずれも、日本語学班研究会その他での口頭発表に基づいて新たに書き下ろした論文である。